第2章 団塊世代の動向・特性

第2章 団塊世代の動向・特性

本調査研究で対象とする団塊世代の置かれている現状や、団塊世代の意識・志向を把握するため、国勢調査、全国消費実態調査などから、人口、世帯、地域分布、就労、家計・資産の状況・傾向について調査し、また、内閣府や自治体が実施した世論調査の結果から、その意識・志向について調査した。さらに、都市部と地方部、男女差によるこれらの結果の違いを分析し、団塊世代の動向・特性を把握した。

1. 人口構成と地域分布

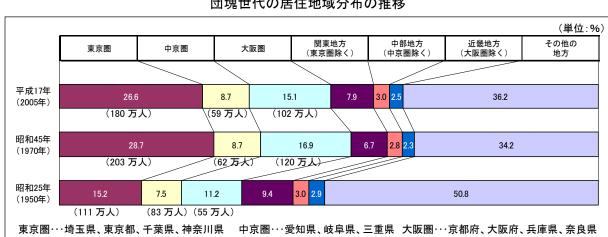
・2005 年現在 56 歳~58 歳(1947~1949 年生)の、いわゆる「団塊世代」の人口は 678 万人で、総 人口の 5.3%を占めている。

90歳以上 明治・大正生まれ 男性 女性 昭和生まれ 80歳 70歳 56歳~58歳 56歳~58歳 女性342万 男性336万 60歳 50歳 40歳 30歳 20歳 団塊世代678万人 総人口の約5.3% 10歳 0歳 120 100 80 60

年齡別人口構成

総務省統計局 HP「平成 17 年国勢調査 第1次基本集計結果(全国結果)統計表」より作成

・団塊世代のうち、3大都市圏に居住する人口の割合は 50.4%となっている。1950 年には 33.9%で あったが70年には54.3%となっており、60年代の高度成長期に若者が大量に大都市へ移動したと いえる。



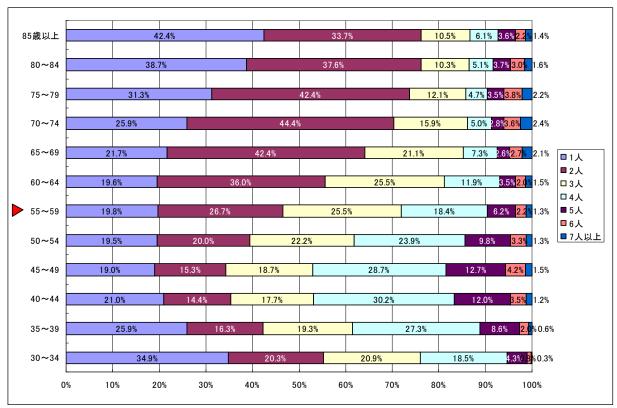
団塊世代の居住地域分布の推移

総務省統計局 HP「平成 17 年国勢調査 第1次基本集計結果(全国結果)統計表」「国勢調査結果の時系列データ」より作成

2. 世帯の状況

- ・55~59歳についてみると、1人世帯~4人世帯の割合がほぼ均衡している。
- ・1 人世帯、2 人世帯の割合は、40 歳代を境として世帯主年齢が上がるほど増加している。

世帯主年齢階層別・1世帯あたりの人員



総務省統計局 HP「平成 17 年国勢調査 第1次基本集計結果(全国結果)統計表」より作成

- ・世帯主年齢が55~59歳の世帯の家族類型についてみると、2005年は「夫婦と子供から成る世帯」 (核家族世帯)が約3割(33.8%)と最も多く、次いで「一人暮らし世帯」(19.8%)、「夫婦のみの世帯」(18.5%)の順となっている。また「ひとり親と子どもから成る世帯」(母子家庭あるいは父子家庭)、「夫婦と親を含む世帯」(親との同居世帯)は、1割前後となっている(各9.9%、14.5%)。
- ・1985 年から 2005 年までの 20 年間の割合の推移をみると、「一人暮らし世帯」は、20 年間で 1.7 倍に増加し、「ひとり親と子どもから成る世帯」は 1.5 倍に増加している。
- ・一方、「夫婦と子供から成る世帯」は 1995 年以降減少傾向にある。また「夫婦のみの世帯」も 20 年間で約1割、「夫婦と親を含む世帯」は約4割減少している。

■ 一人暮らし世帯(単独世帯) 3.5% 2005年 18.5% 33.8% 9.9% 14.5% ■夫婦のみの世帯 2000年 20.1% 37.0% 8.7% □ 夫婦と子供から成る世帯 □ひとり親と子供から成る世帯 1995年 20.3% 7.9% 16.4% 38.2% ■ 夫婦と親を含む世帯 ■その他の世帯 7.1% 1990年 20.9% 37.4% 19.3% 2.8%

世帯の家族類型の推移(世帯主年齢 55~59歳)

総務省統計局 HP「平成 17 年国勢調査 第1次基本集計結果(全国結果)統計表」「国勢調査結果の時系列データ」より作成

6.3%

23.7%

- ・地域別*にみると、特に「夫婦と親を含む世帯」の割合で地域差が大きく、地方部では全国平均の約2倍(28.1%)となっている一方、都市部では全国平均の半分以下(6.0%)となっている。
- ・地方部では「夫婦と子供から成る世帯」の割合(22.5%)が全国平均を大きく下回っている。
- ・都市部では「一人暮らし世帯」の割合(28.9%)が全国平均を大きく上回っている。

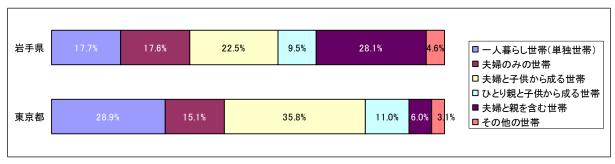
34.0%

1985年

21.2%

※国勢調査結果のうち、岩手県の結果を「地方部」、東京都の結果を「都市部」の代表例として、地域特性を比較した。(以下、次節まで同じ)

地域別・世帯の家族類型(世帯主年齢 55~59歳)

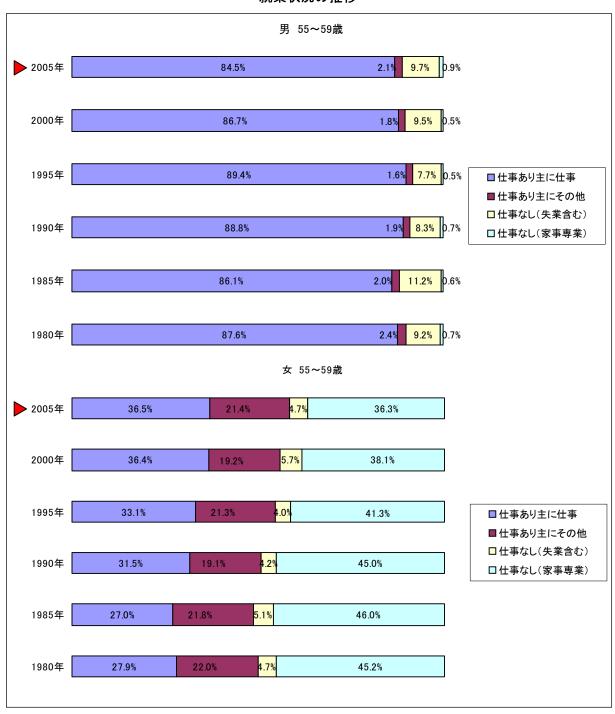


総務省統計局 HP「平成 17 年国勢調査 第1次基本集計結果(岩手県、東京都)統計表」より作成

3. 就業状況

- ・55~59歳の男性の約9割(86.6%)、女性の約6割(57.9%)が仕事をしている。
- ・1980 年~2005 年の 25 年間に、「主に仕事をする」女性が約 1.3 倍となる一方、専業主婦の割合は約 2 割減少している。

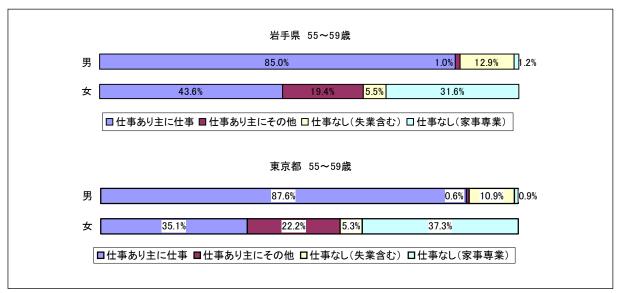
就業状況の推移



総務省統計局 HP「平成 17 年国勢調査 第2次基本集計結果(全国結果)統計表」「国勢調査結果の時系列データ」より作成

- ・55~59歳の男性の就業率には、地域差は見られない。
- ・地方部では主に仕事をする女性の割合は約4割(43.6%)となっている。また、都市部では地方部に比べて専業主婦の割合がやや高い(都市部37.3%、地方部31.6%)。

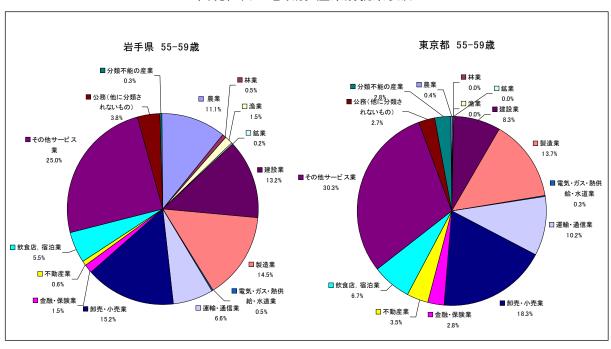
団塊世代の地域別就業状況



総務省統計局 HP「平成 17 年国勢調査 第2次基本集計結果(岩手県、東京都)統計表」より作成

・産業別就業状況について地域別にみると、地方部では建設業(13.2%)や農業など第一次産業(13.1%)の割合が高く、都市部ではその他サービス業(30.3%)、卸売・小売業(18.3%)、運輸・通信業(10.2%)の割合が高い。

団塊世代の地域別・産業別就業状況

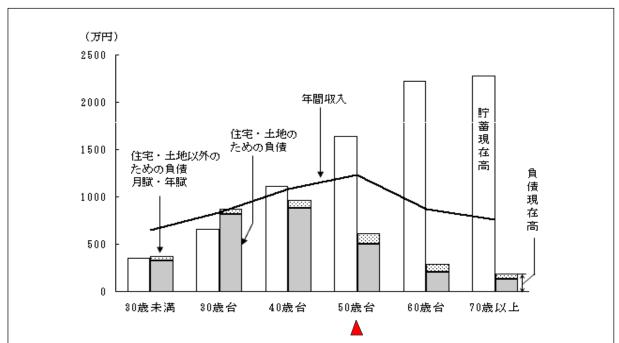


総務省統計局 HP「平成 17 年国勢調査 第2次基本集計結果(岩手県、東京都)統計表」より作成

4. 家計•資産

- ・世帯主年齢が50歳代の世帯についてみると、年間収入は885万円と、各年代の中で最も多い。
- ・貯蓄現在高は 1625 万円となっている。
- ・負債現在高は 608 万円で、負債のうち住宅・土地負債残高(500 万円)は 40 歳代の 6 割弱、また 家賃・地代を支払っている世帯の割合は 40 歳代の約 2/3 となっている。
- ・子どもの就職などを背景として、有業人員は2.05人と、各年代の中で最も多い。

世帯主の年齢階級別・貯蓄現在高及び年間収入(2人以上の世帯)



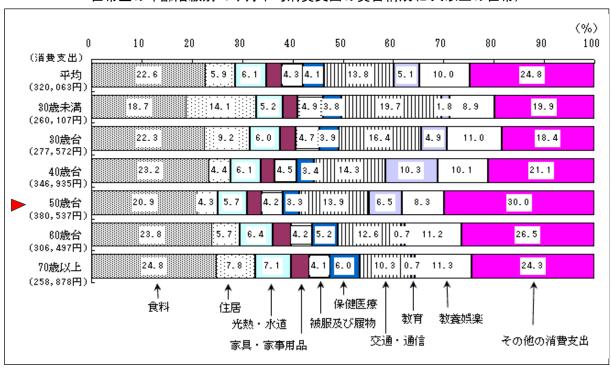
(金額単位:千円)

	30 歳未満	30 歳代	40 歳代	50 歳代	60 歳代	70 歳以上
年間収入	4,693	5,988	7,818	8,849	6,285	5,452
貯蓄現在高	3,547	6,539	11,140	16,245	22,181	22,743
負債現在高	3,743	8,733	9,642	6,084	2,866	1,897
住宅・土地のための負債	3,204	8,168	8,776	5,002	2,069	1,324
住宅・土地のための 負債のある世帯の割合	16.4%	40.8%	51.3%	38.8%	16.8%	8.7%
家賃・地代を支払っている 世帯の割合	73.0%	44.9%	21.9%	14.3%	11.1%	13.0%
世帯人員	3.02 人	3.60 人	4.02 人	3.42 人	2.72 人	2.42 人
有業人員	1.42 人	1.41 人	1.66 人	2.05 人	1.28 人	0.68 人

出展:総務省統計局 HP「平成 16 年全国消費実態調査結果」

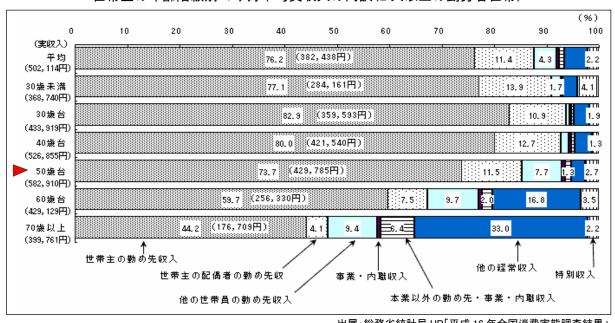
- ・1ヶ月平均消費支出額は、世帯主が50歳代の世帯が約38万円で最も多い。
- ・支出費目のうち住居費の内訳としては、40歳代の世帯に比べて家賃地代が少なく、設備修繕・維持費が多くなっている。またその他の消費支出の内訳は、仕送り金と交際費が大きくなっている。
- ・1ヶ月平均実収入は、世帯主が50歳代の世帯が約58万円で最も多い。その内訳をみると、世帯主の勤め先収入が約43万円で、子どもの就職等による収入(「他の世帯員の勤め先収入」)もある。

世帯主の年齢階級別・1ヶ月平均消費支出の費目構成(2人以上の世帯)



出展:総務省統計局 HP「平成 16 年全国消費実態調査結果」

世帯主の年齢階級別・1ヶ月平均実収入の内訳(2人以上の勤労者世帯)



出展:総務省統計局 HP「平成 16 年全国消費実態調査結果」

5. 団塊世代の意識

本節では、全国的な団塊世代の意識とともに、岩手県と東京都でそれぞれ独自に行なわれた調査結果を用いて、地方部と都市部における団塊世代の意識の特性を比較する。

〇岩手県調査:「団塊の世代に関する意識調査」(2005年11月 岩手県 回答数 636)

この調査では昭和21年10月2日~昭和24年10月1日生まれを「団塊世代」としている。

○東京都調査:「団塊の世代の活用についての調査報告書」(2004年3月 東京都産業労働局)における「50歳代の就業や生活設計に関する調査」(2003年10~12月に東京都内在住の50歳代を対象に実施 有効回答数 3,226)

この報告書では、昭和22~24年生まれを「団塊の世代」、昭和19~28年生まれを「50歳代」としている。

1)居住

- ・二地域居住*への願望があるとした人は、50 歳代が約 5 割(45.5%)と各年代の中で最も高く、すでに実践している人も 2.5%いる。
 - * 都市と農山漁村を往来し、二重生活を楽しむ都市住民の新たなライフスタイル
- ・農山漁村地域への定住の願望があるとした人は、50 歳代では約3割(28.5%)と、20歳代に次いで高い。

二地域居住の願望の有無

(単位:%)

		ある			ない		すでに実践	じナこし+	
年代	(小計)	ある	どちらかと いうとある	(小計)	どちらかと いうとない	ない	している	いえない	わからない
20~29歳	33.3	4.0	29.3	60.6	21.2	39.4	_	5.1	1.0
30~39歳	35.8	11.9	23.9	60.4	27.7	32.7	_	1.9	1.9
40~49歳	36.2	15.2	21.0	62.3	23.2	39.1	_	1.4	_
50~59歳	45.5	24.0	21.5	48.5	9.0	39.5	2.5	3.5	_
60~69歳	41.4	18.6	22.8	54.9	7.9	47.0	0.9	2.3	0.5
70歳以上	28.7	15.2	13.4	67.1	5.5	61.6	0.6	2.4	1.2

出展:内閣府 HP「平成 17 年 11 月 都市と農山漁村の共生・対流に関する世論調査」

農山漁村地域への定住の願望の有無

(単位:%)

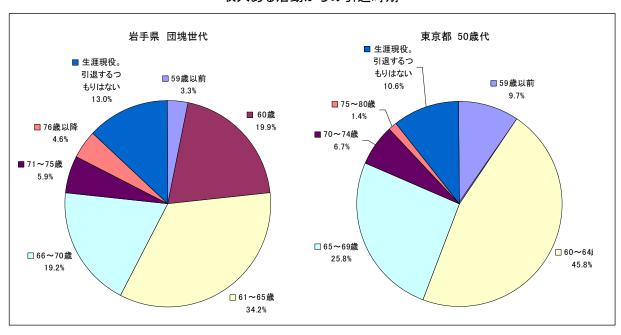
								<u> </u>	
		ある			ない		どちらともい		
年代	(小計)	ある	どちらかとい うとある	(小計)	どちらかとい うとない	ない	えない	わからない	
20~29歳	30.3	8.1	22.2	67.7	15.2	52.5	2.0	_	
30~39歳	17.0	5.0	11.9	78.0	25.2	52.8	4.4	0.6	
40~49歳	15.9	6.5	9.4	82.6	21.7	60.9	1.4	_	
50~59歳	28.5	15.0	13.5	68.0	10.0	58.0	3.0	0.5	
60~69歳	20.0	9.3	10.7	77.7	9.8	67.9	1.9	0.5	
70歳以上	13.4	7.3	6.1	81.1	6.1	75.0	4.9	0.6	

出展:内閣府 HP「平成 17 年 11 月 都市と農山漁村の共生・対流に関する世論調査」

②労働・仕事

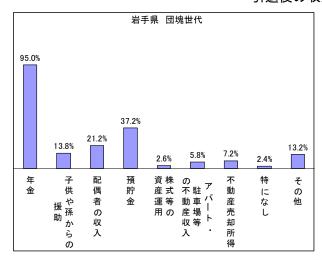
- ・収入のある活動からの引退時期は、地方部(29.7%)、都市部(33.9%)とも、約3割が65歳以降となっている。
- 都市部では約1割(9.7%)が59歳以前に引退するとしている。
- ・地方部(13.0%)、都市部(10.6%)とも、約1割が生涯現役としている。
- ・引退後の収入見込みについては地方部と都市部に大きな差はなく、いずれも年金、預貯金の順となっている。

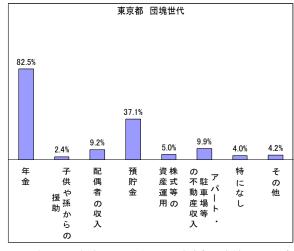
収入ある活動からの引退時期



2005年11月 岩手県調査結果、2004年3月 東京都調査結果より作成

引退後の収入見込み





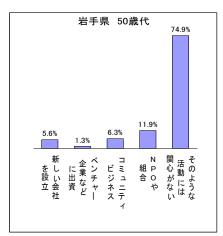
2005年11月 岩手県調査結果、2004年3月 東京都調査結果より作成

- ・5年後の働き方として、地方部では農業に携わるものが約4割(39.4%)と最も多い。
- ・地方部では起業等への関心がないとする人が7割超(74.9%)となっている。
- ・都市部では現在の事業を続けたいとする人(42.3%)、新たに事業を始めたいとする人(39.9%)が、 ともに約4割となっている。

5年後の収入のある活動

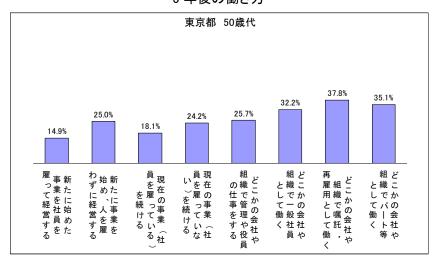
—— 岩手県 団塊世代 39.4% 26.9% 15.5% 15.5% 13.2% 13.2% 9.3% 3.2% ボランティア 団体など・ していない 活動は るる 求職活動 人材派遣 農業 自宅 の他

5 年後に収入の活動を行うにあたり起業等への関心の有無



2005年11月 岩手県調査結果より作成(2つとも)

5年後の働き方

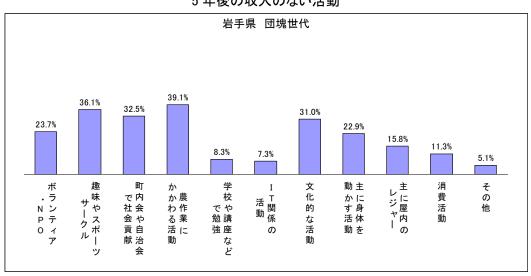


2004年3月 東京都調査結果より作成

③将来の生活

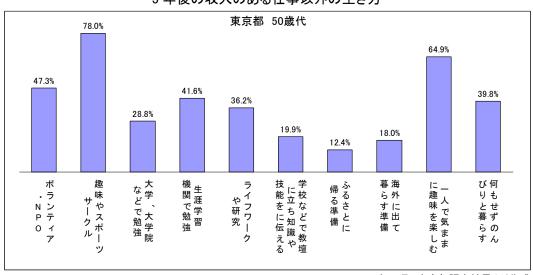
- ・5 年後の活動として、地方部では約 4 割が農作業に関わる活動(39.1%)や趣味・スポーツサークル活動(36.1%)、約 3 割が町内会や自治会での社会貢献活動(32.5%)や文化的活動(31.0%)に関心をもっている。
- ・都市部では約8割(78.0%)が趣味・スポーツサークル活動、6割強(64.9%)が一人での趣味活動に関心をもっている。また約2割(18.0%)が海外に出て暮らす準備をする、約1割(12.4%)がふるさとに帰る準備をするとしている。

5年後の収入のない活動



2005年11月 岩手県調査結果より作成

5年後の収入のある仕事以外の生き方



2004年3月 東京都調査結果より作成

4社会貢献意識

- ・55~59 歳の男女の約7割(男性68.8%、女性67.5%)が、社会への貢献意識があるとしている。
- ・50 歳代の男女の約 7 割(男性 66.7%、女性 70.6%)が、ボランティア活動に参加してみたいとしている。

社会への貢献意識

(単位:%)

性 別	年代	ある	あまり 考えていない	わからない
	40~44歳	63.0	32.7	4.3
	45~49歳	71.7	25.7	2.7
	50~54歳	63.9	33.3	2.8
男	55~59歳	68.8	29.4	1.8
	60~64歳	70.0	28.3	1.7
	65~69歳	67.0	30.6	2.4
	70歳以上	59.3	38.6	2.0
	40~44歳	69.3	26.7	4.0
	45~49歳	71.4	26.7	1.8
	50~54歳	69.6	29.2	1.2
女	55~59歳	67.5	30.5	1.9
	60~64歳	62.3	33.6	4.1
	65~69歳	59.0	36.8	4.2
	70歳以上	45.6	49.6	4.8

出展:内閣府 HP「平成 18 年 2 月 社会意識に関する世論調査」

ボランティア活動への参加希望

(単位:%)

性			参加してみたり	١,	参加して	
別	年代	(小計)	ぜひ参加	機会があれば	みたいと	わからない
נינ <i>ו</i>		(/ (/)	してみたい	参加してみたい	思わない	
	40~49歳	67.1	9.6	57.5	26	6.8
男	50~59歳	66.7	10.6	56.1	28.7	4.6
77	60~69歳	56.1	11.3	44.8	39	4.9
	70歳以上	37.8	6.1	31.7	56.9	5.3
	40~49歳	75.6	13.3	62.4	20.8	3.6
女	50~59歳	70.6	14.8	55.8	24.6	4.8
	60~69歳	60.7	13.6	47.2	33.3	6.0
	70歳以上	29.4	6.1	23.2	64.2	6.5

出展:内閣府 HP「平成 17 年 5 月 生涯学習に関する世論調査」

・参加してみたいボランティア活動として、50歳代の男性では、自然・環境保護活動(46.0%)、体育・スポーツ・文化活動(31.7%)、自主防災活動・災害援助活動(26.2%)に関心が高く、女性では、社会福祉活動に関心が高い(45.9%)。

参加してみたいボランティア活動

(単位:%)

性別	年代	活動自然・環境保護に関する	社会福祉に関する活動	する活動体育・スポーツ・文化に関	活動自主防災活動や災害援助	交通安全に関する活動	ザー	公共施設での活動	活動	指導の活動に関する	活動 国際交流(協力)に関する	活動保険・医療・衛生に関する	その他
	40~49歳	41.5	20.4	41.5	23.1	15.0	8.2	6.8	12.2	12.2	15.0	3.4	0.7
男	50~59歳	46.0	21.8	31.7	26.2	17.8	5.4	9.9	8.4	7.9	5.9	5.9	0.5
7,	60~69歳	48.2	26.4	26.4	24.4	23.8	10.4	9.8	11.4	12.4	8.8	5.2	1.6
	70歳以上	38.4	16.2	19.2	16.2	20.2	5.1	10.1	9.1	7.1	1.0	4.0	3.0
	40~49歳	35.1	43.1	28.4	13.3	16.1	14.2	16.1	17.1	12.3	11.4	14.2	0.5
女	50~59歳	36.5	45.9	17.9	9.8	9.8	15.9	15.9	4.1	11.8	8.1	11.8	2.0
	60~69歳	42.4	42.4	15.6	15.2	12.1	17.4	15.2	5.4	10.7	4.9	9.4	1.3
	70歳以上	32.6	27.9	16.3	11.6	9.3	19.8	10.5	3.5	12.8	2.3	1.2	1.2

出展:内閣府 HP「平成 17 年 5 月 生涯学習に関する世論調査」

- ・50 歳代の男女の約5割(男性45.2%、女性48.8%)が、NPO活動に参加したいとしている。
- ・男女とも、自然環境保護・リサイクル推進(男性 18.6%、女性 18.4%)、まちづくり・むらづくり(男性 19.1%、女性 12.4%)への関心が高い。
- ・男性に比べて女性の方が、福祉・介護分野への関心が高い(男性 9.0%、女性 26.4%)。

NPO 活動への参加意識・参加したい活動分野

(単位:%)

						参加	したいと	思う					思参わ加
性別	年代	(小計)	の福祉・介護	リサイクル推進自然環境保護,	むらづくり,	スポーツの振興文化・芸術・	支援子育でに対する	·救助 災害の予防	青少年の育成教育の推進,	治安,交通安全	国際協力	その他	思わないと
	40~49歳	48.9	9.4	14.4	16.5	12.2	5.0	14.4	5.8	9.4	5.8	_	43.2
男	50~59歳	45.2	9.0	18.6	19.1	9.0	1.5	10.1	9.5	7.0	3.5	1.5	48.2
	60~69歳	43.3	11.1	15.7	17.1	7.4	4.1	11.1	5.5	8.8	2.8	0.5	50.7
	70歳以上	35.1	11.9	10.6	9.9	7.3	2.0	7.3	6.0	6.6	5.3	2.0	59.6
	40~49歳	57.7	30.2	19.5	8.7	11.4	18.8	9.4	13.4	5.4	8.7	-	37.6
女	50~59歳	48.8	26.4	18.4	12.4	10.4	12.9	9.0	7.0	4.5	4.0	_	43.3
	60~69歳	36.0	17.3	12.4	11.1	5.8	4.9	4.4	1.8	3.6	3.1	0.4	53.8
	70歳以上	13.6	6.3	4.0	4.0	1.1	2.8	1.7	2.3	1.1	0.6	_	80.7

出展:内閣府 HP「平成 17 年 8 月 NPO(民間非営利組織)に関する世論調査」

- ・NPO を選ぶ際、50 歳代男性は女性と比べて、自分の能力を発揮できること(45.6%)、行政と協力して活動を行なっていること(27.8%)を重視する割合が高い。
- ・50 歳代女性は男性と比べて、目的や活動内容が共感できること(70.4%)、活動の成果をあげていること(23.5%)を重視する割合が高い。

参加するNPOを選ぶ際に重視する点

(単位:%)

性別	年代	共感できること目的や活動内容が	できること	動を行なっているこ かいと 協力して活	を行なってい	ていること活動の成果をあげ	していること多くの市民が参加	いること	していること積極的に情報発信	その他
	40~49歳	66.2	33.8	23.5	22.1	14.7	20.6	5.9	8.8	_
男	50~59歳	56.7	45.6	27.8	25.6	14.4	17.8	8.9	10.0	2.2
ים	60~69歳	45.7	28.7	26.6	18.1	10.6	24.5	10.6	8.5	_
	70歳以上	52.8	41.5	24.5	13.2	11.3	15.1	13.2	3.8	1.9
	40~49歳	77.9	25.6	25.6	19.8	16.3	25.6	15.1	9.3	-
女	50~59歳	70.4	30.6	18.4	19.4	23.5	15.3	10.2	13.3	_
	60~69歳	51.9	30.9	21.0	21.0	18.5	12.3	13.6	7.4	1.2
	70歳以上	37.5	41.7	20.8	16.7	4.2	12.5	12.5	8.3	_

出展: 内閣府 HP「平成 17 年 8 月 NPO(民間非営利組織)に関する世論調査」

⑤関心のあること

- ・55~59 歳の男女の 7 割弱(男性 65.3%、女性 67.0%)が、老後の生活設計について悩み・不安を持っている。
- ・男性に比べて女性の方が、自分の健康(53.4%)や、家族の健康(47.9%)についての悩み・不安の割合が高い。
- ・今後及び現在の収入や資産(各 12.3%)、仕事や人間関係(12.7%)、事業・家業の経営(12.3%) に関する悩み・不安をもつ男性が、1 割強となっている。

悩みや不安の内容

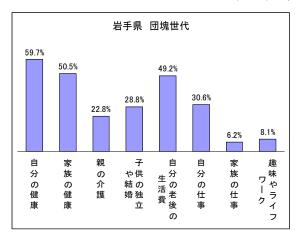
(単位:%)

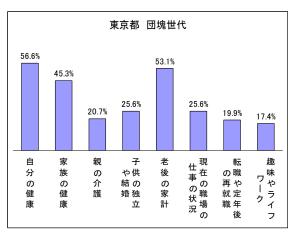
性別	年代	老後の生活設計につ	自分の健康について	家族の健康について	の見通しについて今後の収入や資産	について現在の収入や資産	就職,結婚など) 家族の生活(進学,	就職,結婚など) 自分の生活(進学,	人間関係について勤務先での仕事や	関係について家族・親族間の人間	上の問題について事業や家業の経営	について近隣・地域との関係	やの也
	40~44歳	51.3	42.3	37.2	19.9	19.9	13.5	8.3	19.9	9.6	13.5	8.3	1.3
	45~49歳	51.7	39.3	33.7	16.3	16.3	11.8	6.7	19.1	6.7	11.8	6.7	1.1
男	50~54歳	62.1	47.5	40.6	10.0	10.0	11.4	5.5	13.7	7.3	11.4	5.5	0.9
カ	55~59歳	65.3	36.0	37.3	12.3	12.3	12.3	5.1	12.7	7.2	12.3	5.1	0.8
	60~64歳	58.6	57.3	39.3	6.7	6.7	10.0	5.0	3.3	7.5	10.0	5.0	0.8
	65~69歳	47.6	63.3	46.7	6.7	6.7	7.6	5.2	3.3	4.8	7.6	5.2	1.9
	40~44歳	48.0	31.7	40.1	14.9	14.9	5.4	7.4	12.9	16.8	5.4	7.4	3.0
	45~49歳	57.6	43.8	47.5	12.4	12.4	7.4	6.0	12.9	12.9	7.4	6.0	0.5
女	50~54歳	62.0	48.4	46.5	8.5	8.5	7.8	5.0	5.8	12.4	7.8	5.0	0.4
×	55~59歳	67.0	53.4	47.9	6.8	6.8	8.4	7.4	4.9	10.4	8.4	7.4	1.3
	60~64歳	64.7	51.9	49.6	4.1	4.1	4.9	3.8	2.3	6.0	4.9	3.8	0.8
	65~69歳	51.6	63.0	52.4	4.8	4.8	4.8	6.2	1.5	9.2	4.8	6.2	2.2

出展:内閣府 HP「平成 17 年 6 月 国民生活に関する世論調査」

・地方部、都市部とも、生活の中では自分の健康(地方部 59.7%、都市部 56.6%)や家族の健康(地方部 50.5%、都市部 45.3%)に関すること、老後の生活費(地方部 49.2%、都市部 53.1%)に高い関心がある。

生活の中で関心のあること





2005年11月 岩手県調査結果、2004年3月 東京都調査結果より作成

- ・自由時間の過ごし方としては、55~59 歳の男女とも、旅行に行くとした人の割合(男性 19.3%、女性 26.4%)が比較的高い。
- ・男性では、知人・友人と過ごすとした割合(13.3%)が、各年代の中で最も低い。
- ・女性では、地域活動や社会活動をするとした割合(11.3%)が、各年代の中で最も高い。

自由時間の過ごし方

(単位:%)

性別	年代	レビを見たりする	趣味を楽しむ	のんびり休養する	お聞・雑誌などを読	知人・友人と過ごす	しむ家族との団らんを楽	ショッピングに行く	体を動かす	旅行に行く	の情報の閲覧パソコンや携帯電話で	知識を吸収する	をする地域活動や社会活動	その他	わからない
	40~44歳	50.2	39.1	46.2	32.4	14.7	44.9	15.1	26.2	13.3	31.6	4.9	2.7	0.9	_
	45~49歳	45.8	42.1	44.2	25.0	18.3	29.6	11.3	25.8	10.8	20.0	8.3	6.3	0.4	0.4
男	50~54歳	54.7	41.9	38.9	31.2	17.4	26.2	13.1	20.8	15.1	13.1	5.4	4.7	2.3	0.7
<i>–</i>	55~59歳	51.0	42.7	42.1	36.3	13.3	23.9	11.2	22.2	19.3	13.3	6.3	4.9	0.9	0.6
	60~64歳	62.2	39.4	36.4	41.7	19.2	25.0	11.1	24.7	17.5	13.3	6.9	10.0	2.2	1.1
***************************************	65~69歳	60.6	45.1	36.6	45.1	19.9	24.9	12.6	20.8	21.5	8.5	8.5	11.4	5.0	0.3
	40~44歳	43.2	39.2	40.3	32.7	32.4	40.6	38.5	16.9	9.4	25.2	9.7	6.8	0.7	1.4
	45~49歳	52.5	41.6	38.8	33.9	39.4	38.8	41.6	18.9	16.5	18.9	9.9	7.1	0.3	0.6
女	50~54歳	58.8	39.5	35.3	35.9	39.8	31.4	41.2	17.8	22.3	14.1	6.5	6.5	1.1	0.6
	55~59歳	59.6	43.6	36.1	38.4	38.8	30.5	40.0	15.6	26.4	11.7	9.0	11.3	2.0	1.1
	60~64歳	60.5	49.9	32.5	40.0	38.2	25.6	32.8	21.3	31.3	9.4	7.4	7.4	4.0	0.5
	65~69歳	65.3	44.5	37.6	37.1	35.4	28.0	33.7	15.8	28.7	3.3	5.7	6.5	2.9	0.7

出展:内閣府 HP「平成 17 年 6 月 国民生活に関する世論調査」